

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市富沢児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・ 令和3年度 41,848人（前年度比 110.9%） ・ 令和2年度 37,751人 ・ 令和元年度 41,508人	
	《事業》 ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 70,395千円 (65,939千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、地域運営懇談会、児童館利用者座談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

()は前年度決算額

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>「今できる子育て支援とは何か」を考える1年であった。富沢児童館がそれぞれの居場所となるように努めた。</p> <p>【児童健全育成事業】 多くの子どもたちの願いから「じどうかんまつり」の実施を決めた。短い時間ではあったが、大型ゲーム・工作等を入れ替え制で行った。おまつりの装飾を児童クラブ登録児童で作上げたり、ゲームの準備を高学年ボランティアと進めたり、それぞれの思いの中で、子どもたちの笑顔がひかる一日であった。</p> <p>【子育て家庭支援事業】 休館中も子育て支援を続けるために「おやこクッキング」をブログで紹介した。季節の手作り工作セットや子育て情報を自由に持ち帰ることができるように児童館前に設置した。自由来館再開後、多い日は親子30組以上の来館があり、遊び場として求められていることを実感した。「（多胎児親子）ジェミニの会」との共催事業は、定例化することができた。大野田たんぽぽホームをはじめ近隣保育園等の職員が施設紹介をする機会を設け、「孤立しない子育て」を目指した。</p> <p>【地域交流推進事業】 地域大人ボランティア「レインボーズ2021」を立ち上げた。メンバーと話し合いを重ね「先輩ママの子育てお役立ち情報」を作成した。地域の病院・店・遊び場等、多岐に渡った情報コーナーとなり、多くの親子に活用されている。畑づくり、おさがりバザーも共催し、心が通い合う活動ができた。</p> <p>【放課後児童健全育成事業（児童クラブ）】 登録児童増加に伴い、プレハブの建設が始まった。8月に完成し、小・中学校長先生等、地域の方々への見学会を行い児童の過ごし方についてご意見をいただいた。9月より本館・プレハブ・南大野田サテライトの3か所で運営を開始した。子どもたちの居場所になれるように、毎日ミーティングを行った。オンラインでの工場見学やSDGSクイズ等、出前事業を取り入れ、離れていても繋がることのできる新しい形の活動も行った。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置等の発令があったが、児童クラブに関しては、年間通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部は休止としていたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>児童健全育成事業においては、児童ボランティア「トミザワイレブン」を募集し地域の清掃活動や児童館まつりの準備、来館が難しい時にはリモートボランティアとしてバザーの手芸品・カードゲーム用のイラスト作成など家庭でできるボランティアを考えて活動の継続に努めた。中学生・高校生対象にスポーツやレクリエーション行う場として遊戯室を開放し、中高生の居場所作りにも努めている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、児童館のフェンスに季節毎の装飾を飾ったり手作り工作キットを自由に持ちかえられるようにするなど、外出のきっかけ作りや児童館への関心を高めながら利用しやすい環境作りに努めている。毎週月曜日に「とみっくすミニ」を実施して体操や工作など遊びの提供を行っている。参加人数が多い時は部屋を分けて開催するなど、多くの乳幼児親子が地域における子育て世帯が孤立しないように支援を行っている。</p> <p>地域交流推進事業においては、新たに地域大人ボランティア「レインボーズ2021」を立ち上げた。他にも地域ボランティアの協力が多くあり、来館できない時は「リモートボランティア」を企画して保護者のニーズに応えた取り組みを行っている。近隣の児童館や市民センター、民生委員との連携事業「ほっとinとみざわ」で、子育てに関するポケットブックを作成して情報発信するなど、地域が一体となって子育て家庭を支援している。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、サテライトや本館の利用を学年で分け、読み聞かせや工作など年齢に応じた活動を行ったり、「お店屋さんごっこ」の取組みでは高学年が1年生の手伝いをして異年齢交流を図るなど、遊びを通して子どもの育ちを支援している。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課